第29号

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

第十二回 日本赤十字北海道看護大学大学祭

The 12th Cross Hearts Festival

「青春」～モノより思い出～

第十二回大学祭が六月二十六(土)、二十七(日)の両日、本学キャンパスにおいて開催されました。両日とも晴天に恵まれ最高気温が三〇℃を超えるなか、多数の来場者（初日五四三名、二日目六五七名、計一、二〇〇名）を迎えて盛況の大学祭となりました。

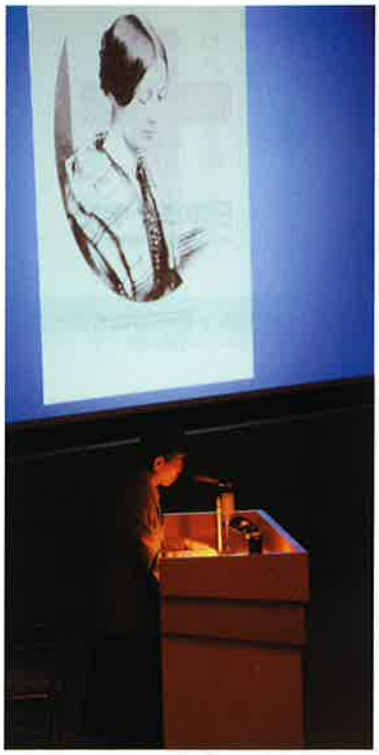
今年のテーマ『「青春」～モノより思い出』の「青春」という言葉には若い力に溢れる学生が学校祭を瑞々しく元気一杯に主導し、「モノより思い出」という言葉には来場者の方々の心に暖かく残る学校祭にしようという学生の総意が込められています。

ヘルスチェック（初日二〇三名、二日目一八四名、計三八七名来場）、看護の体験教室（二日目のみ実施。八九名来場）、十代と二十代の若者を対象にした性感染症と子宮頸癌についての啓発活動（ピアッ子サークル主催）などを通じて日頃の学びの成果を披露し、「チャリティー募金箱の設置（五、一五二円）」、「チャリティーストラップおよびクリアファイルの販売（四八〇円）」、「日本赤十字社献血（採血者七〇名）」などを通じて社会貢献を行いました。アロマカフェをはじめ各種模擬店、北見工業大学との合同による吹奏楽演奏、よさこいソーランチーム「薄荷童子」（学外団体）による演舞、ゴスペルクワイア「N.N.C」（学外団体）による歌声の披露など、盛り沢山の催し物が大学祭を彩りました。さらに今年の学校祭では本学三年生有志が「RKⅢ六十四人くらい」（Red Cross Kango 三年生六十四人くらい）という名前のダンスチームを結成し、躍動感溢れる爽やかな踊りを披露して観客から大きな喝采を受けていました。

後夜祭ではゲーム、軽音楽部によるライブ演奏で二日間の疲れをねぎらい、最後に夜空に打ち上げられる恒例の花火を見て今年の学校祭を無事終了しました。

「日本赤十字看護学会学術集会」本学にて開催

平成二十二年六月十九日、二十日の二日間、本学において第十一回日本赤十字看護学会学術集会が開催されました。学術集会のメインテーマは、「看護師の品格を考える」であり、昨今の社会情勢を踏まえ、今の時代だからこそ看護師の品格について共に考えたいという思いのもと掲げられました。



特別講演には、聖母大学の小玉香津子先生をお招きして、「古いは新しい、新しいは古い～フローレンス・ナイチンゲールの品格～」というテーマでご講演を頂き、大変貴重なお話しを分かりやすくお話しいただきました。まさに、看護師の品格を改めて考えるひとときとなりました。

他にも、教育講演、シンポジウム、交流集会、テーマセッション、市民講座が開催され、第一線でご活躍されている専門家の諸先生方から大変興味深いお話しを聴く貴重な機会となりました。

また、一般口演発表二十五件、示説発表三十三件と数多くの研究発表が行われ、多彩な企画による実り多い学術集会となりました。

知床フィールドワーク

七月三日（土）、斜里町にある知床自然センターにおいて、総合科目Ⅰのフィールドワークを行ないました。

自然センター内では、ダイナビジョンを使用した知床の自然全般に関する講義、知床自然センタースタッフの方々による、知床がいかにして自然遺産になり得たか、また世界遺産登録後の現状とその課題についての講義を受けました。時にはクイズ形式を取り、学生に興味を持たせるような意義深い講義でした。

屋外では、時雨の合間をぬって、森の復元を目指す取り組み「百平方メートル運動の森・トラスト」の現地見学を行ないました。エゾシカに樹皮を食い剥がされ枯れていく樹木と、エゾシカの食害から守るための保護シートに巻かれた樹木を、実際に見ることができました。時にはクマ避けのために、グループ皆で大声を出しながら、歩き続けました。

学生達は真摯な態度で講義に耳を傾け、普段見られない大自然のスケール、時折顔を見せる野生のエゾシカに歓声を上げていました。

知床自然センターのスタッフの皆様、大変お世話になりました。

領域別看護学実習を終えて

4年生
大谷 千春

三年生後期から始まった領域別看護学実習を振り返ってみると、患者さんとの関わりを通して様々な学びがあったと思います。

正直なところ、実習は楽なものではなく、初めのうちは夏休み期間中の不規則な生活から、実習の生活リズムに慣れるまでとても大変でした。また帰宅後にある記録の整理に戸惑い、十分な睡眠を得られないまま実習に向かう日々も多くあったと思います。しかし、毎日コミュニケーションや援助を通して患者さんと関わることで、少しずつお互いを理解し合えるようになり、良い信頼関係を築いていくことができました。何より患者さんが笑顔で「ありがとう。」とおっしゃってくれることに看護のやりがいを強く感じました。

実習では何事にも積極的に行動し、できるところまでやってみることがとても重要だと感じます。そして、できなかったことがあればその日のうちに振り返り、次回から援助に活かしていく。この積み重ねが後々自分の成長へとつながっていくと思います。「記録さえなければ実習は楽しいんだけどな。」と多々思いましたが、今こうして振り返ってみると、毎日の記録があったからこそ実習をやり遂げられたのではないかと思います。

来年の春には看護師として仕事に就けるよう、実習で学んだ多くのことを活かして就職活動や国家試験の勉学に励んでいきたいと思います。

4年生
前野 陽子

看護実習は、思い返すとグループメンバーと共に楽しく過ごすことができ、充実していたように感じます。しかし記録と健康管理の調整で悩むことがあり、自分自身の看護知識や技術が向上することを実感する一方で、至らない点もたくさんあることを感じました。また看護職の領域は広く、看護のやりがいや方向性が自分の中で定まらない領域では困惑したこともありました。それらの経験も、共に頑張るグループメンバーがいること、患者さんの笑顔、看護師さんや先生が応援していただいたことで、乗り切ることができたと思います。看護実習を終えて、自分の「一生懸命努力する」精神を貫くことができたことは私にとっての誇りです。看護実習は、看護としての学びだけでなく、自分の看護観を見いだすきっかけとなり、卒業後の自分の将来像を具体化し、自分自身の人間性を向上させてくれるものでもあったと思います。看護実習での学びや反省を国家試験の勉強や看護師となってからの自分の看護に生かしていきたいと思います。

第一回 日本赤十字六大学学生交流会

私たちは今回、八月九日から十日にかけて東京の広尾で行われた第一回日本赤十字六大学学生交流会に参加して、他大学の学生に触発されることが多く、良い刺激を受けました。

今回は日本赤十字看護大学の学生らが、今まで赤十字六大学の学生が交流する場がないという疑問を持ったところから始まり、三年越しでようやく今回実施することができたということで、私たちも来年・再来年もずっと継続させたいという気持ちです。ディベイトから日本赤十字医療センターの見学、現役看護師・助産師の講演、川嶋みどり先生の講義など、充実した内容で、他大学の学生と深く交流することができました。

今回の交流で、自分たちの看護の在り方について考えさせられ、視野を広げる大切さを学び、交流会に参加できて本当によかったと思います。交流会参加に携わっていただいた六大学の学長・先生・学生・事務ならびに日本赤十字医療センターの方々や、その他ご協力していただいた方々に感謝致します。

オープンキャンパスを開催しました

平成二十二年度のオープンキャンパスは七月二十五日（日）と九月二十六日（日）に開催しました。参加者は延べ三百五十二名と昨年よりも増加し、盛況でした。

今年の特徴は、模擬授業の実施に加えて実習室など学内の見学方法を自由見学に切り替えたことです。また、旭川、釧路、帯広からの無料送迎バスも運行致しました。

模擬授業は、赤十字概論と看護学概論について尾山とし子准教授が講義しましたが、参加者からは「看護師になりたいという気持ちがより強くなった」と大変好評でした。実習室での体験コーナーには、新たに基礎科学領域からのミニ実験も加わりました。顕微鏡を用いた細胞の撮影、およびストレスチェックも大変好評で、「体験できるものが多くて、とても参考になった」との回答を多く得ました。「本学に入学したい」と記述した高校生は八十％に達しました。

来年度も参加者の皆様のご期待に応えられるように内容を充実させていきたいと考えています。

認定看護師教育課程修了生が全員合格！

平成二十二年七月二日、第十八回認定看護師認定審査（日本看護協会認定資格）の合格発表があり、本学看護開発センター認定看護師教育課程（がん化学療法看護コース）の平成二十一年度修了生（一期生）十一名が受験し、全員が合格しました。

六カ月間の教育と修了後のフォローアップ研修、修了生十一名および関係教員の努力が見事に実を結びました。

学生団体 Motif

こんにちは、学生団体Motifです。私たちは「学生が主体となって様々な活動を展開していこう」「学生の間にしか出来ない経験を一つでも増やそう」という主旨のもと、一般の「部」とは違ったスタンスで活動しています。主な活動は週一回のミーティングや学生主体のディスカッション企画、地域でのボランティア活動、他大学・団体の交流企画など様々な領域で活動を展開しています。最近では、演者を本学にお招きして学生や地域住民を対象に講演会を企画しています。これらの活動を通して、自分たちが将来のために役立つ経験をして、より広い視野を持つことができると思います。学年関係なく、仲良く楽しく活動していますので、興味がある方はぜひ気軽にご参加ください。

教職員人事

【退職】

平成二十二年六月三十日付

教授　伊奈　侊子

平成二十二年九月三十日付

助手　宮本　未

助手　小里　裕美

編集後記

日本人に多い「モヤモヤ病」の原因遺伝子が東北大グループにより発見されました。早い段階で診断可能になり、脳出血・脳虚血など重篤な事態になることが避けられそうです。学生達と共に臨地実習で脳血管疾患患者様に接することが多いだけに、この朗報に大きな期待を寄せています。

平成二十二年度の残り二ヶ月足らずとなり、立冬を迎えました。どうぞ皆様もご自愛専一に。

日本赤十字北海道看護大学学内誌
Viva Kango
日本赤十字社
第29号

発行日／2010年11月22日
編集・発行／広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp